

# 柏崎市男女共同参画に関する市民意識調査

## ●調査の目的

この調査は、現行「柏崎市男女共同参画基本計画(かしわざき男女共同参画プラン)」の見直しにあたり、「柏崎市男女共同参画推進条例」に基づいて実施し、令和3年度(2021年度)を初年度とする次期計画を策定する基礎資料とするものです。

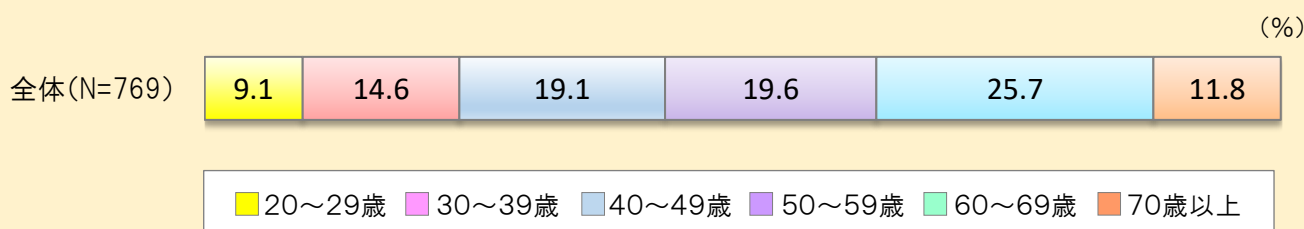
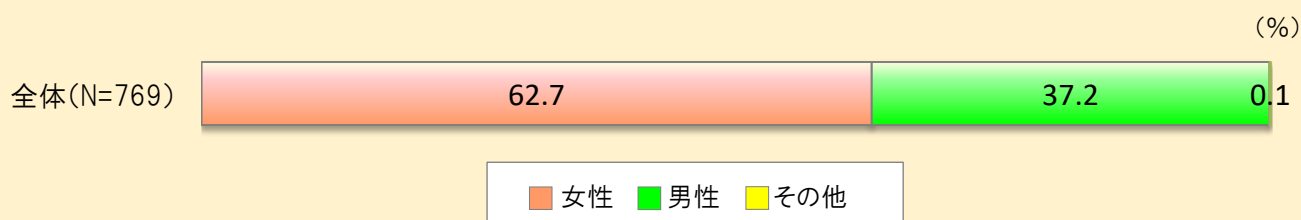
調査対象： 柏崎市在住の満20歳以上の男女  
2,000人(男女各1,000人)

調査方法： 郵送配布、郵送回収

調査期間： 令和元年(2019年)8月27日～9月17日

有効回収数： 769人(回収率38.5%)

## ●回答者の属性



\* 図表中に示す N、nは回答者の数です。全数を「N」、該当数を「n」で表記しています。

令和2年(2020年)2月

柏崎市



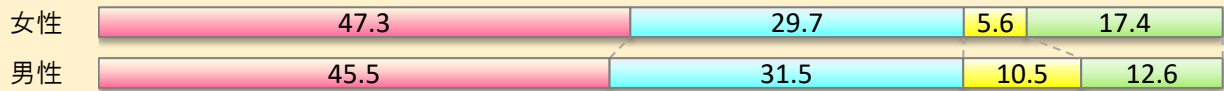
## 男女の地位の平等感

### 1. 家庭生活の中で

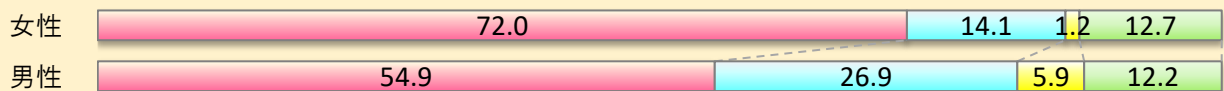
(%)



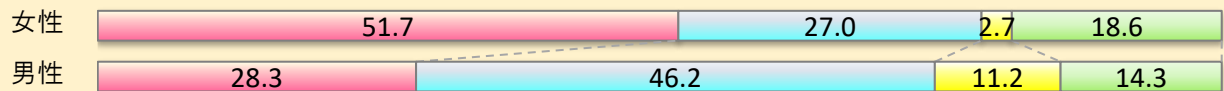
### 2. 職場の中で



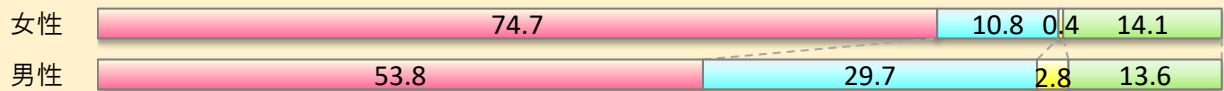
### 3. 社会通念・習慣・しきたりなど



### 4. 法律や制度の面で



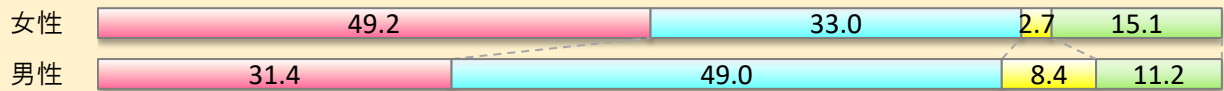
### 5. 政治・経済活動の場で



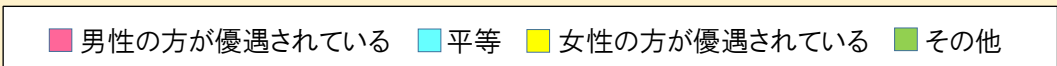
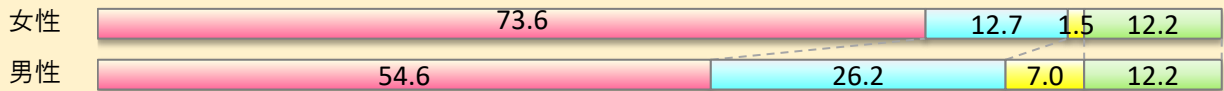
### 6. 学校教育の場で



### 7. 地域活動・社会活動の場で



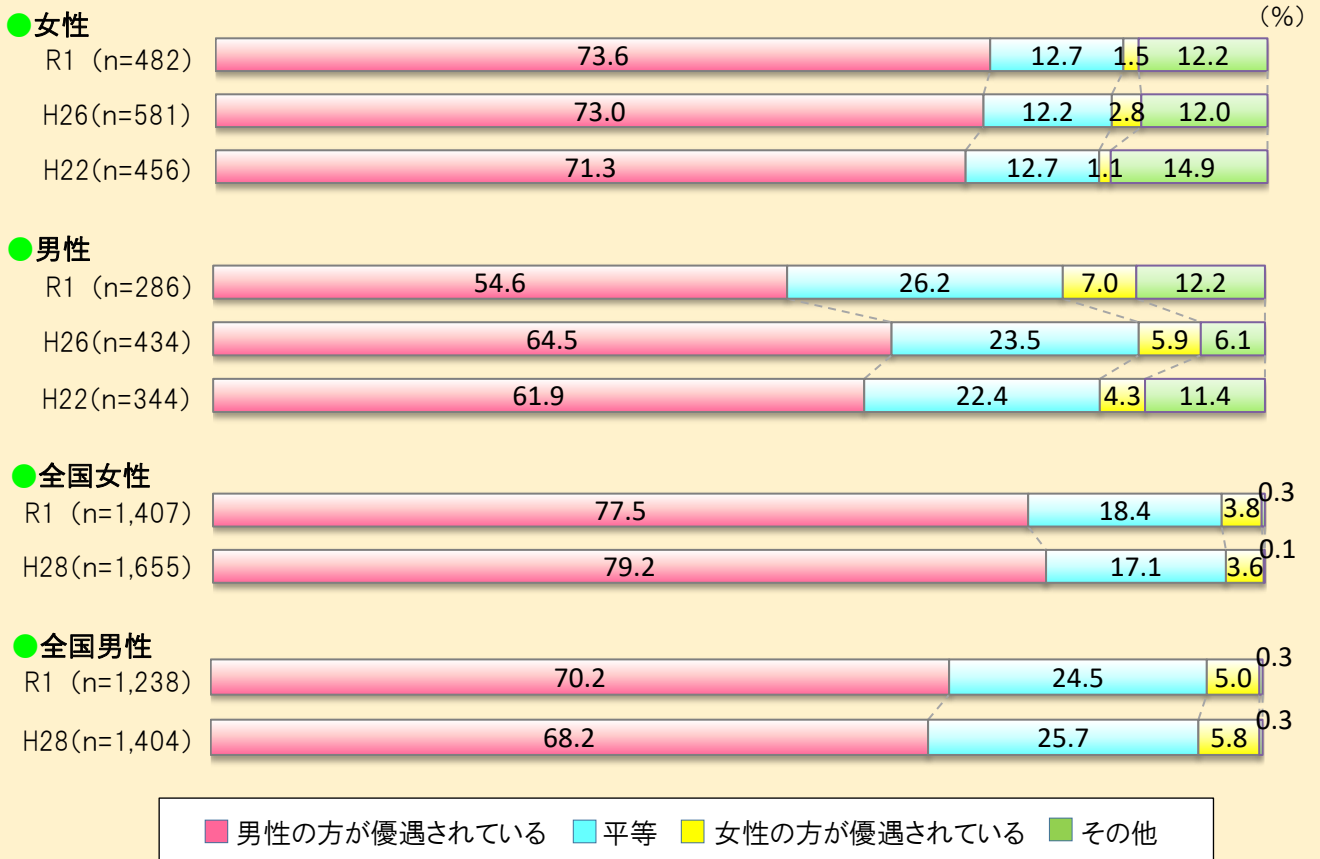
### 8. 社会全体として



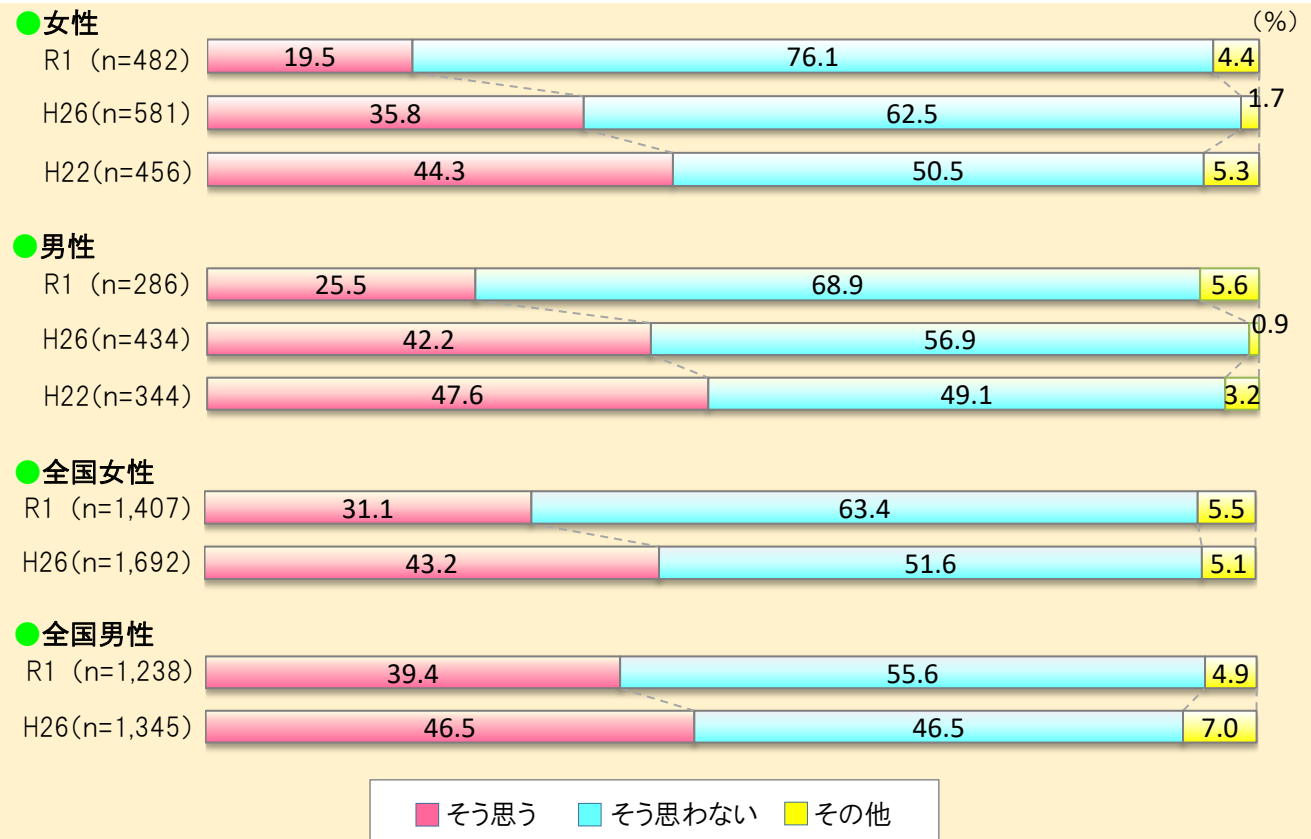
女性(n=482) 男性(n=286)

1～7の設問のうち6項目で男性の方が優遇されているという回答が高い結果となりました。そのため、8の社会全体での平等感が低い結果となっていると思われます。

## 男女の地位の平等感 ー社会全体としてー



## 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



この調査は、性別による役割分担意識を知るものです。「そう思わない」と回答した割合が男女共に大きく伸びています。これは、女性の就業割合が高い状況が意識を変えているものと思われます。

## 家庭での役割分担について

### 1. 掃除、洗濯、食事の支度などの家事

(%)



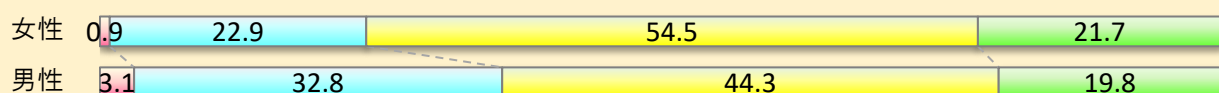
### 2. 日々の家計の管理



### 3. 高額な商品や土地・家屋の購入



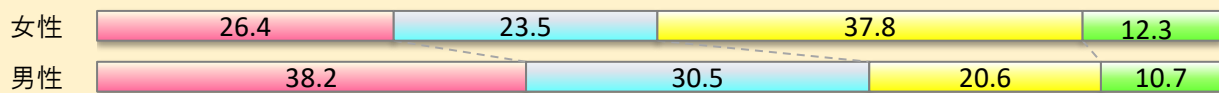
### 4. 育児や子どものしつけ



### 5. 親の介護



### 6. 町内会、PTAなどの会合への参加



### 7. 子どもの教育方針や進学目標を決める



### 8. 家庭の問題における最終的な決定をする

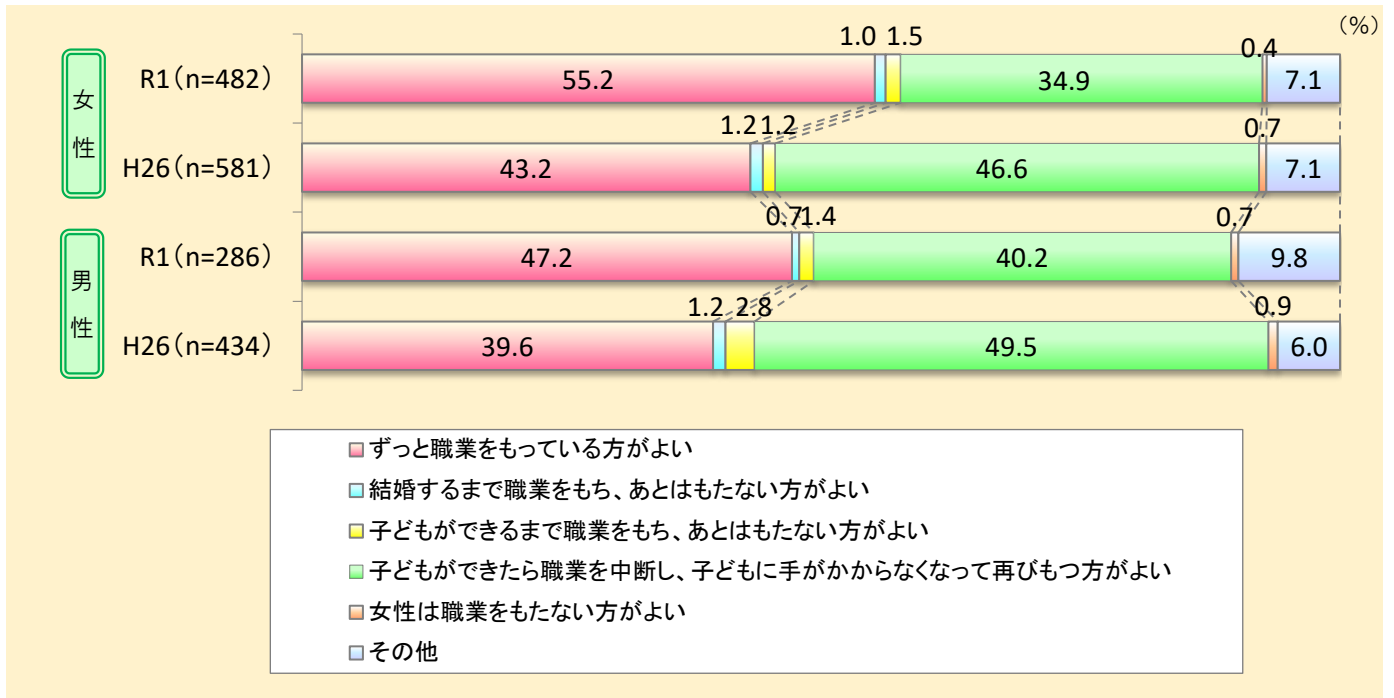


■ 主に夫 ■ 夫婦同じ程度 ■ 主に妻 ■ その他

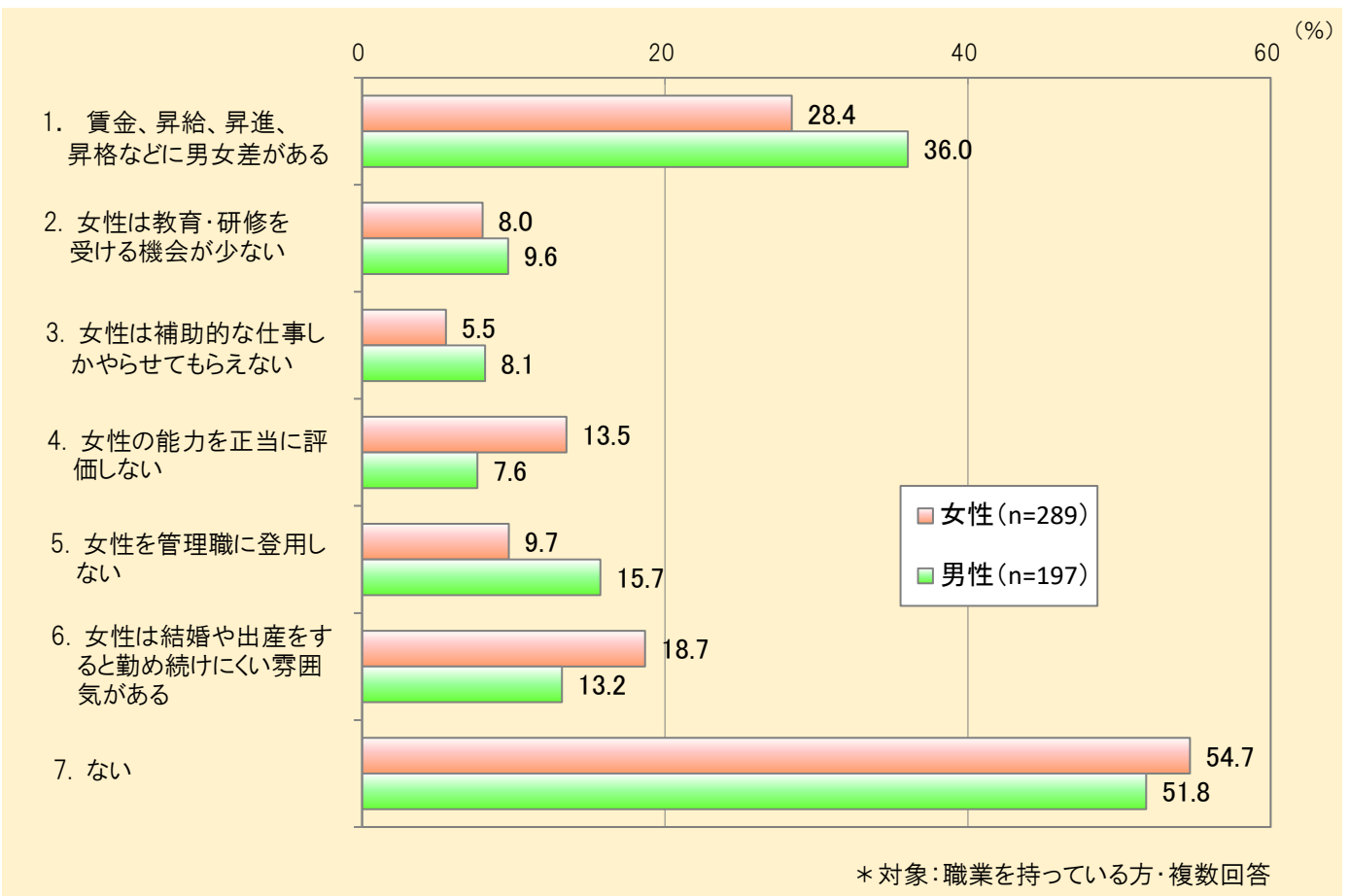
\* 対象: 結婚している方: 女性(n=341) 男性(n=131)

家事、育児、家計の管理は、女性の役割となっている家庭が非常に多い結果となりました。「妻は家庭を守るべき」という意識は低くなっているものの現実はそうなっていないことが分かります。

## 女性が職業を持つことについて

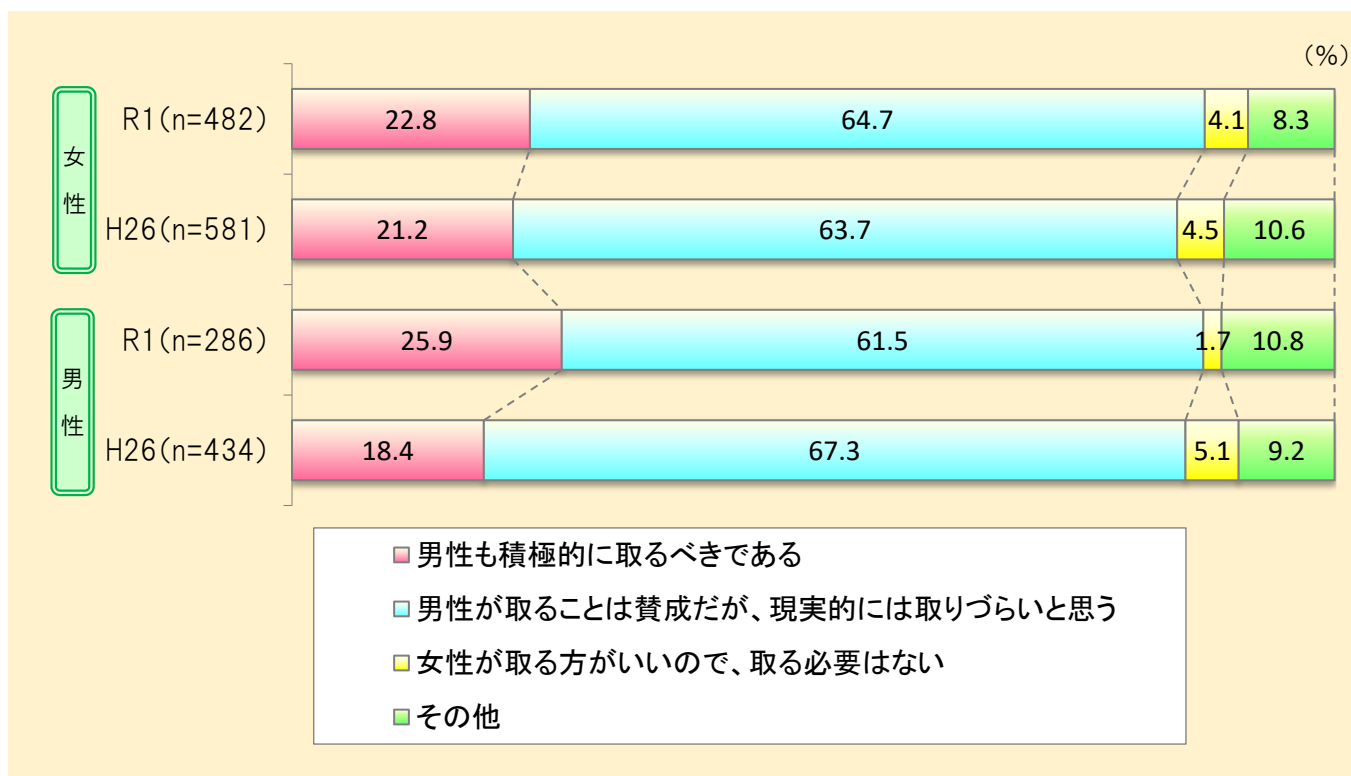


## あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、次のようなことがありますか

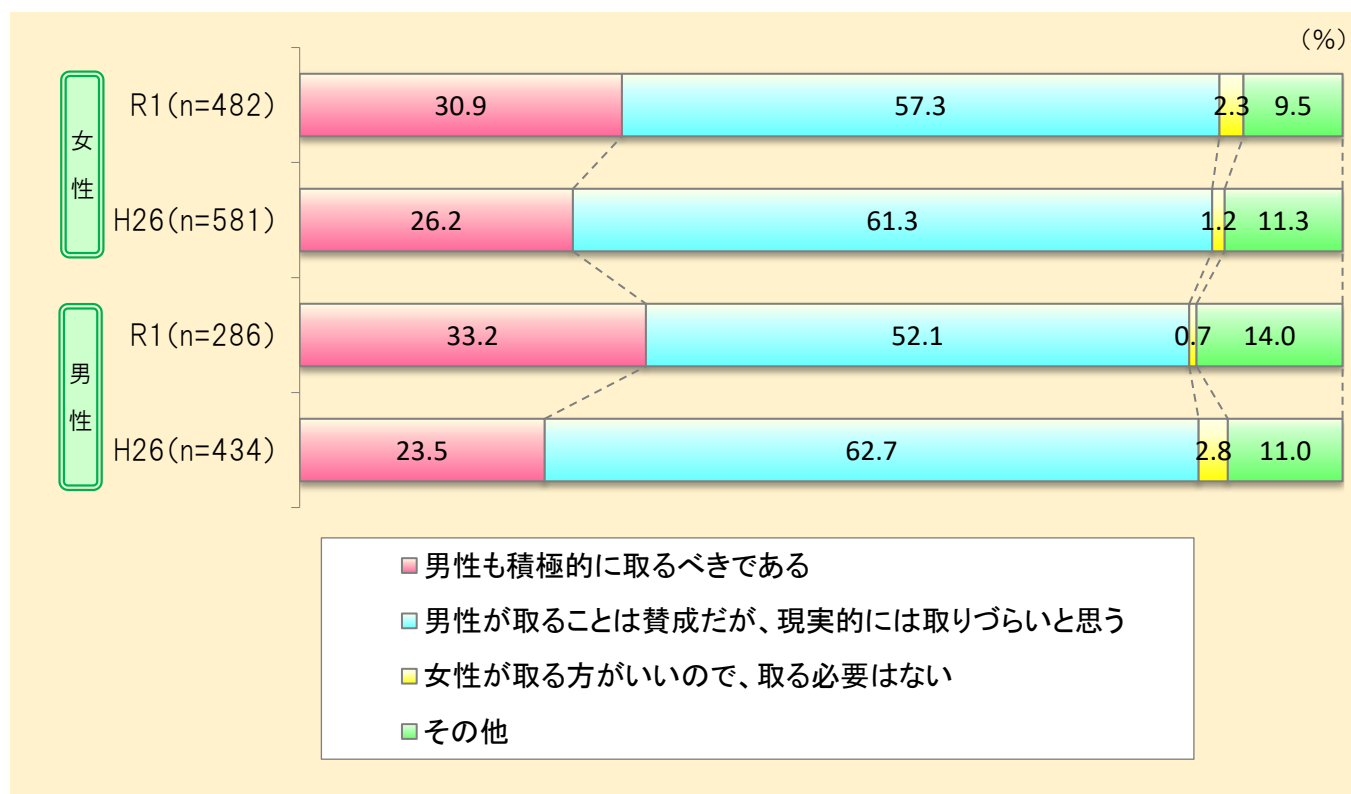


職業を持ち続けたいと考える女性が初めて5割を超えました。女性が経済的に自立することで、あらゆる分野で男女の地位の平等感が高まることが期待できます。一方で職場では、男女格差が少なからず存在します。女性の能力が低く評価される社会は、大きな経済的損失を招いているという認識が必要です。

## 男性が育児休業を取ることにについて

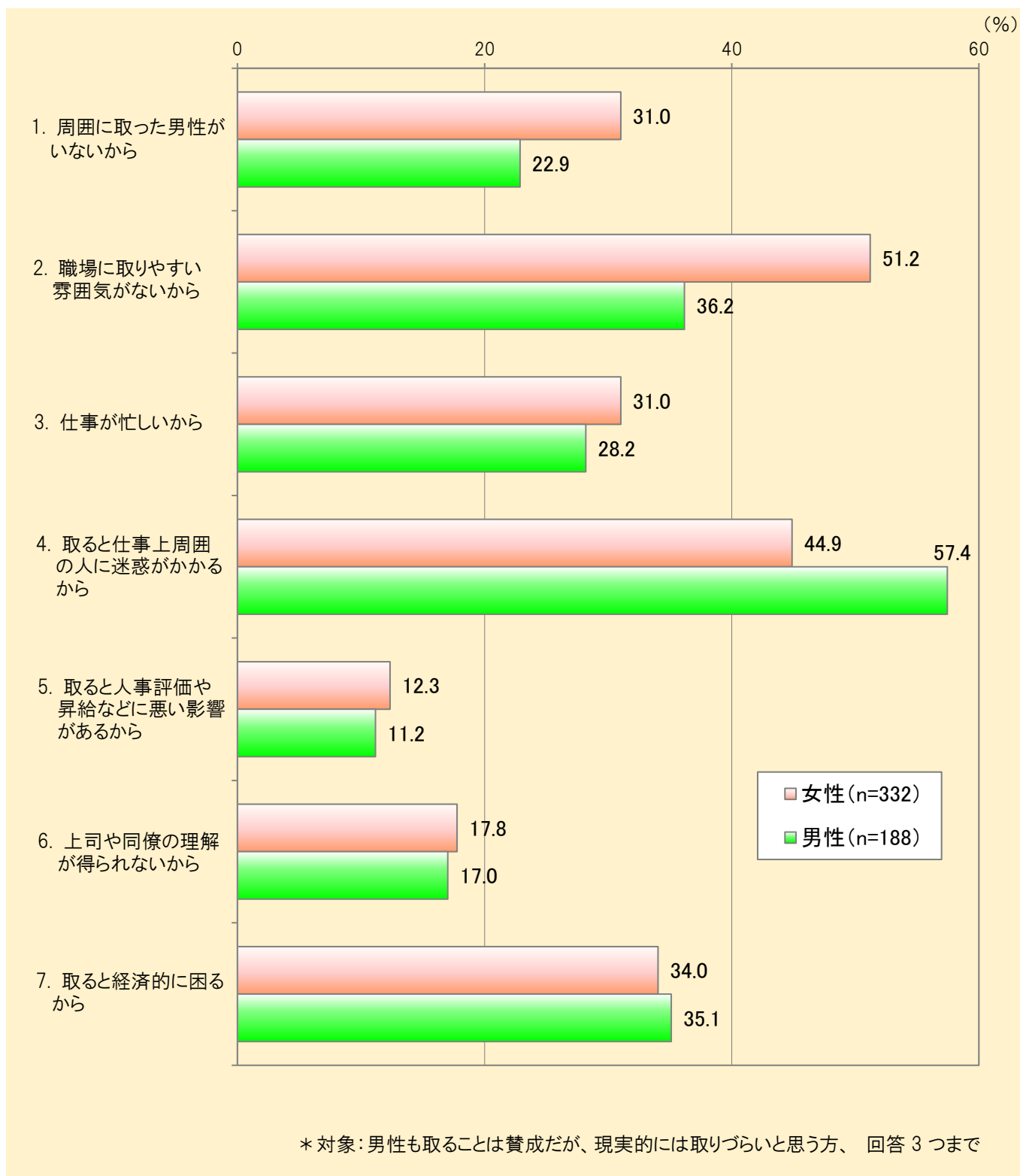


## 男性が介護休業を取ることにについて



同時期に行われた男女共同参画に関する事業所調査では、男性の育休取得率は7.9%でした。また、育児休業中の代替要員の確保方法としては、同じ部署でやりくりする割合が75%でした。

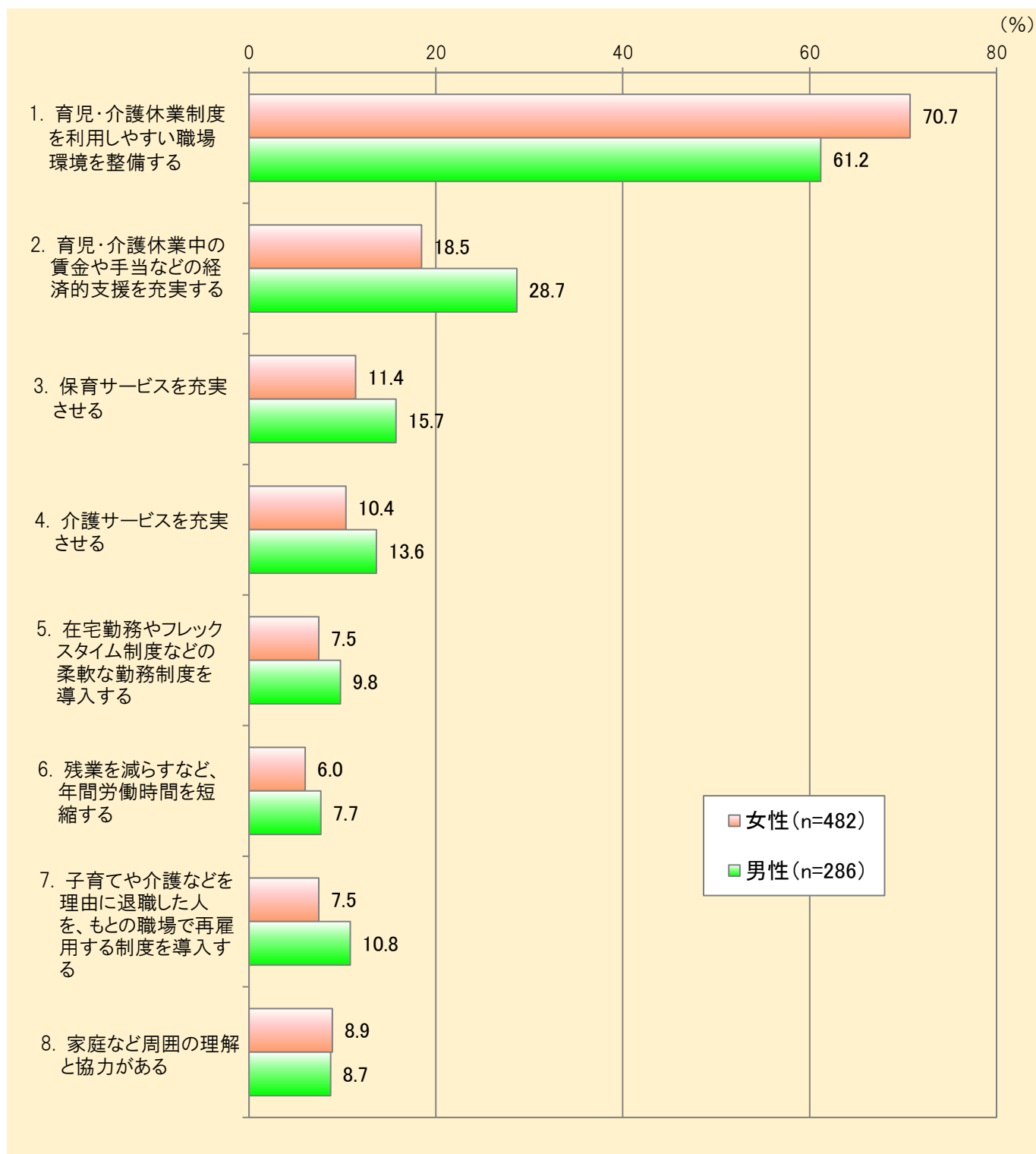
## 男性が育児休業、介護休業を取りづらい理由について



育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律（育児・介護休業法）では、労働者（男女）は、育児・介護休業をすることができると規定されています。

男性が育休を取得するメリットは、妻の出産後の心身のケアができる、子どもへ愛情が強まる、マネジメントスキルを磨くことができる、会社への帰属意識が高まるなどの効果が言われています。

## 男性と女性がともに仕事と家庭生活を両立させていく環境をつくるために必要なこと

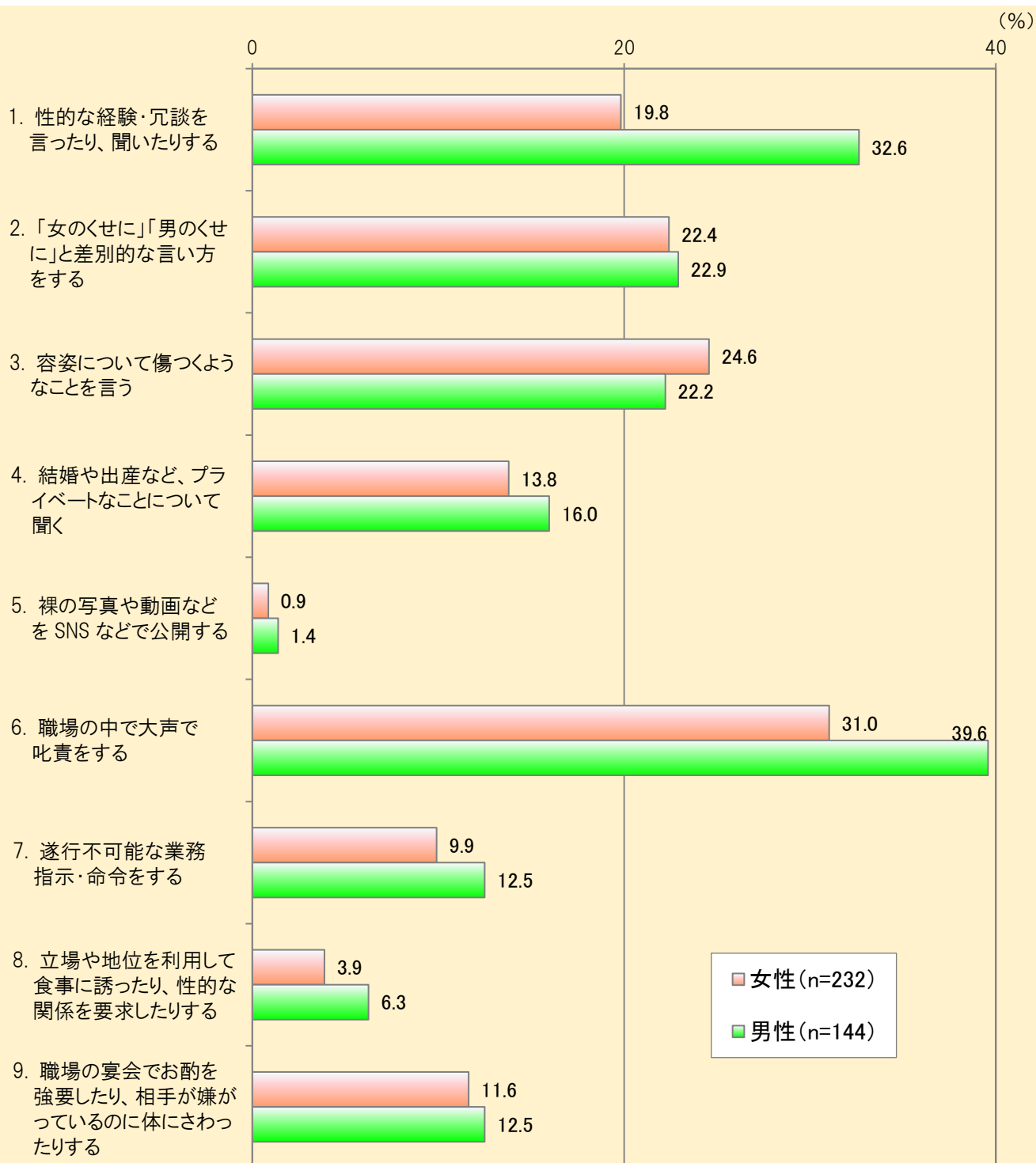


ワーク・ライフ・バランスの推進には、事業所の協力が必要です。特に事業主の気持ち一つでスピード感のある改革が実現できます。

仕事と家庭生活の双方が充実することが大切であり、事業所と従業員の双方にメリットのある働き方と意識の改革が望まれます。



## 見たり聞いたりしたことがあるハラスメント



\* 対象：ハラスメントを見たり聞いたりしたことがある、受けたことがある、したことがある方

ハラスメントをしない、させない、我慢しないためには、ハラスメントをしっかりと理解する必要があります。

# DVの経験がありますか

(%)



女性(n=482) 男性(n=286)